

毎年、倉吉市を中心とした県中部地区で開かれている日本海未来ウオーク。初夏の風を感じながら、初夏の風を感じながら

まちづくり 住民の力

今年で九回目を迎える。同市のNPO法人未来(岸田寛昭代表)は、この未来ウオークを運営する市民有志を母体として発足した。

今年十四日に開かれた創立五周年イベントで、代表の岸田さんは「子どもたちが大人になって『倉吉ってどんなところ?』って聞かれたとき、『何も無い』と言わせた



日本海未来ウオークで韓国からの参加者を迎えてあいさつする岸田代表。倉吉ハイクスクエアふれあい広場

日本海未来ウオーク母体に

【NPO法人未来(倉吉)】

くはない。そんな思いから未来は発足した」と振り返った。

言葉通り、未来の活動は未来ウオークにとどまらない。廃業した大型店の建物を指定管理者として運営する「シビックセンター」たからや」は、貸し事務所としての機能のほか、福祉関係団体やNPOなどが入居し、市民の手によるまちづくり活動の拠点となっている。さらに、地域住民の活動にもさまざまな形でかわっており、地域社会の調整役として欠かせない存在となっている。

未来ウオークは、昨年延べ約三千人が参加した。全国のウオーキングファンはもとより、韓国からの参加もある一大イベントに発展、今年も六月六、七の両日に開かれる。岸田さんたちの活動は幅を広げ、住民が切り開く未来へ向けて着実に歩みを進めている。

(真田透)

(毎週月曜日に掲載)